

「心のふるさと 伊勢」 一歩くまち・クリーン自動車のまちを目指してー

「心のふるさと 伊勢」 一歩くまち・クリーン自動車のまちを目指してー

おかげさま Action !

～ 住むひとも、来たひとも ～

（低炭素社会に向けた行動計画）

平成 2 5 年 3 月

電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会

1. はじめに

私たちの暮らしは、石油や天然ガスなどの化石燃料から得られるエネルギーを利用することで、非常に便利で豊かなものとなっています。しかし、その豊かさと引き替えに、排出される温室効果ガスにより地球温暖化が進行しているといわれており、私達のこれからの暮らしにおいて、様々な影響が起こるのではないかと考えられています。

三重県は平成 24 年 3 月に「三重県地球温暖化対策実行計画」を策定し、行政・事業者・県民が一体となり、ライフスタイルを変えながら共に力を合わせて、地球温暖化防止のために温室効果ガス排出削減の対策を進めています。特に、交通・移動に関しては、「自動車に対する過度な依存をせずに暮らせ、環境負荷の低減を実現できるまちづくり」を目指しており、平成 24 年度から 4 年間、伊勢市にて「地域と共に創る電気自動車等を活用した低炭素社会モデル事業」をスタートさせました。

また、伊勢市は平成 24 年 12 月に「伊勢市地球温暖化防止実行計画」を策定し、その中で目指す将来像として「エネルギー地産地消のまち」、「歩くまち・クリーン自動車のまち」、「ごみゼロのまち」、「みどりのまち」、「環境意識の高いまち」の 5 つを定め、温室効果ガスの削減を進めています。伊勢市は、本協議会の取組を「歩くまち・クリーン自動車のまち」の事業の 1 つに位置づけ、市民だけでなく、観光者にとっても便利に移動できる低炭素社会の実現に向けて、行政・事業者・市民・観光者と取り組むこととしています。

本協議会は、低炭素社会の創造のために主体的に考え、行動していくという理念の基で集結した者により設立しました。

平成 24 年度は、5 つのテーマごとにワーキンググループを設置し、のべ 25 回の検討を重ねて、本行動計画「おかげさま Action!」を作成しました。「おかげさま Action!」で定めた取組は、多くの困難を乗り越えてこそ成し遂げられるものですが、協議会に参画している者皆が協力し、低炭素社会の創造に向けて一歩ずつ行動していきます。

また、1 人でも多くの方々が、「おかげさま Action!」に賛同いただき、共に歩んで頂くことを望みます。

電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会

参画者一同

電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 名簿

		会社名（又は法人名）	所属部署名・役職名	会員名
2	行政	伊勢市	副市長	松下 裕
3		伊勢県民センター	伊勢県民センター所長	頓部 邦夫
4	大学	皇學館大学	学生部長	田浦 雅徳
5		国立大学法人 名古屋大学	環境学研究科 都市環境学専攻准教授	加藤 博和
6		国立大学法人 三重大学	理事・副学長	朴 恵淑
7	団体及び組合	伊勢おはらい町会議	会長	前田 世利子
8		社団法人伊勢市観光協会	専務理事	西村 純一
9		伊勢商工会議所	副会頭	菊川 厚
10		社団法人伊勢地区医師会	寺田産婦人科 顧問	寺田 功
11		伊勢二見民宿組合		小川 和加子
12		伊勢旅館組合	理事	奥田 聡
13		二見町旅館組合	組合長	濱千代 輝
14		社団法人三重県旅客自動車協会	専務理事	景山 和
15		公益社団法人三重県バス協会	専務理事	星野 雅則
16		外宮参道発展会	会長	山本 武士
17	民間事業者	イオンリテール株式会社 イオン伊勢店	人事総務課長	山本 雅嗣
18		株式会社伊勢安土桃山文化村	総支配人	五十子 京子
19		近畿日本ツーリスト株式会社	地域誘客事業部課長	大谷 晴信
20		近畿日本鉄道株式会社	総合戦略室事業開発部部長	松井 利喜
21		株式会社セブン-イレブン・ジャパン	三重地区ディストリクトマネジャー	本富 圭太
22		タイムズ24株式会社	執行役員 第2事業本部本部長	林 秀行
23		東海日産自動車株式会社	執行役員	藤原 謙二
24		豊田通商株式会社	HEV事業推進室 部長補	浅井 靖
25		トヨタ自動車株式会社	流通企画部 地域統括部長	河合 利夫
26		株式会社トヨタレンタリース三重	代表取締役専務	岩崎 光生
27		日産自動車株式会社	渉外部 課長	西片 睦
28		日東工業株式会社	ソリューション統括部 自動車関連事業推進部	豊福 拓馬
29		日本電気株式会社三重支店	支店長	中村 悟
30		日本ユニシス株式会社	公共サービス事業部 次世代ビジネス部 グループマネジャー	西村 忠士
31		本田技研工業株式会社	日本営業本部営業課開発室 マーケティング 戦略プロダクトロッキーダー	小木 誉之
32		三菱自動車工業株式会社	E Vビジネス本部 E V国内推進部部長付	橋本 昌憲
33		株式会社JTB中部	交流文化部 地域交流推進課長	後藤 貴康

敬称略

2. 本計画の目的

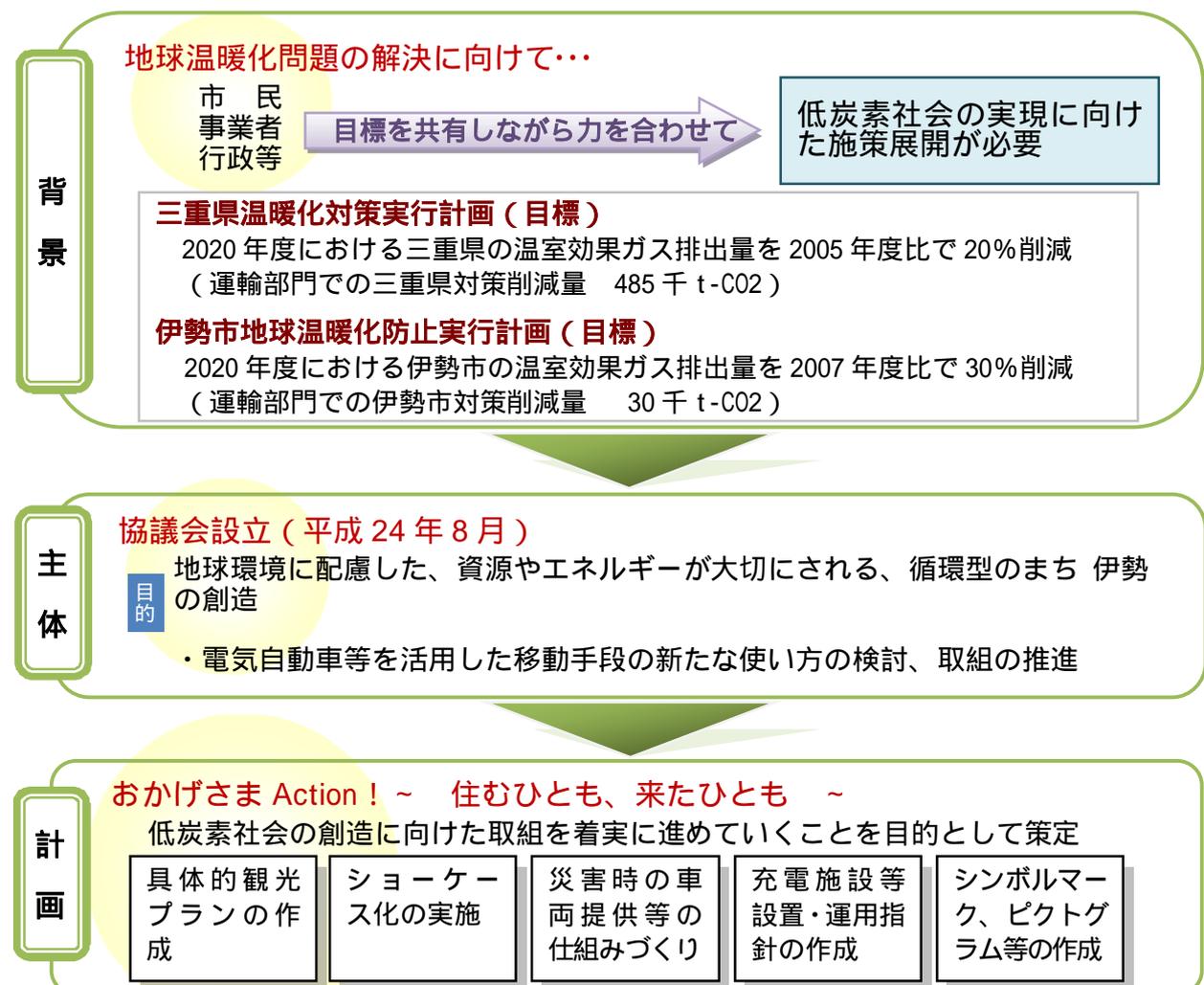
地球温暖化問題の解決に向けては、地球規模の国際的な取組だけではなく、市民、事業者、行政等の様々な主体が将来像や目標を共有しながら力を合わせて低炭素社会の実現に向けて施策を展開していくことが望まれています。

本協議会は、多くの化石燃料に依存した暮らしから、省エネルギーでかつ豊かな低炭素社会での暮らしに移行していくため、電気自動車等（以下「EV等」という。）を活用した移動手段の新たな使い方を検討し、取組を進めることで「地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型のまち伊勢」を創造することを目的として平成24年8月に設立しました。

本計画は、協議会の理念の基に参画者の具体的な取組と役割を共有し、新たな豊かさを実感できる低炭素社会の創造に向けた取組を着実に進めていくことを目的として策定します。

3. 計画の位置づけ

この計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3において定められている地方公共団体実行計画である「三重県地球温暖化対策実行計画（三重県）」及び「伊勢市地球温暖化防止実行計画（伊勢市）」に基づき、様々な主体で構成する「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」が運輸部門の二酸化炭素削減と、二酸化炭素排出量の少ないまちづくりを進めるために取り組む計画です。



4. 将来ビジョン

伊勢市に住む人

- ・住み続けるための基本条件である安心感や快適性を大切にしながら、伊勢独特の歴史・文化、自然風土を守り伝えると共に、鉄道、バス等の公共交通機関の利用と共にEV等の二酸化炭素の排出が少ない自動車や自転車等を活用した暮らし方へライフスタイルを変化させている。
- ・伊勢市を訪れる人のために、快適に市内を移動できる環境の実現に向けて取り組んでいる。
- ・災害が起きた場合においても、訪れる人に安心感をもってもらうための仕組みづくりを進めている。

伊勢市を訪れる人

- ・交通渋滞と伊勢市まで自動車でも排出する二酸化炭素を少しでも減らすために、多くの方が公共交通機関を利用して訪れ、市内では二酸化炭素の排出が少ない自動車や自転車等を活用している。
- ・伊勢市民の「訪れる人々をあたたく迎え、気持ち良くお帰りいただく『おもてなしの心』」で取り組んでいる低炭素社会、循環型の社会創造への姿を感じていただき、住んでいる地域でも取組をはじめている。



5. 取り組む内容（短期・中長期別）

伊勢市では、平成25年には式年遷宮が行われ、多くの観光客が訪れると想定しています。この機会を協議会の取組を多くの方に知っていただくチャンスと考え、市民、観光客が共感して携われる取組を短期で実行していきます。

また、短期の取組と併せ、中長期ではインフラ整備や公共交通機関や社用車へのEV等車両の導入などに取り組んでいきます。

期間

短期とは、平成25年4月から平成28年3月までの3年間とする。

中長期とは、平成25年4月から約10年間とする。

5.1 短期事業概要

式年遷宮から数年間にわたり、多くの方が伊勢を訪れると想定されていることから、電気自動車等が活用されている姿を多くの人に見ていただくと共に、災害時に使用できる電源として電気自動車等が活用する体制を築いていきます。

5.2 短期的に取り組む内容

- ・ 電気自動車等を使用した観光プランの作成及び実施
- ・ 超小型モビリティを活用した観光の実現化
- ・ タクシー車両へのEV等の導入
- ・ 電気自動車等のカーシェアリング事業・レンタカー事業の実施
- ・ 電気自動車等を活用している状況を多くの方に見て頂く取組
- ・ 災害時に電気自動車等を共有する仕組みづくり、新規確保の推進
- ・ 地域における災害時の電気自動車等の活用方法の検討、実際の活用に向けた取組の推進
- ・ 駐車場、観光施設、商業施設における充電施設の整備
- ・ 社用車への電気自動車等の導入
- ・ 充電施設導入及び運用のためのルール（指針）の作成
- ・ 汎用的なシンボルマークデザインの作成・普及
- ・ 充電設備における誘導用看板のピクトグラム作成・普及
- ・ 様々な主体が連携した公共交通機関利用促進の取組
- ・ あらゆる利用者の充電使用料の支払いを可能とする決済方法の検討

5.3 中長期事業概要

多くの方が電気自動車等を利用できる環境の整備を進めながら、より多くの方々が電気自動車等の導入を促進すると共に、市民、観光者にはこれらの車の利用促進を行います。また、災害時には、事業者が所有する電気自動車等を貸与して被災者の安全のために使用する協定が実施される体制を築いていきます。

5.4 中長期的に取り組む内容

- ・ 電気バス、電気自動車等を使用した観光の実施
- ・ 超小型モビリティを活用した観光の実施
- ・ 電気自動車等のカーシェアリングの普及・利用拡大
- ・ レンタカー、タクシーへの電気自動車等の導入
- ・ 電気バスやハイブリッドバスの導入
- ・ 災害時の電気自動車等の活用に関する先行地域での検証結果をふまえた全市的な展開
- ・ 駐車場、観光施設、商業施設における充電施設の整備
- ・ 社用車への電気自動車等の導入
- ・ 汎用的なシンボルマークデザインの普及
- ・ 充電設備における誘導用看板のピクトグラムの普及
- ・ E V等へのラッピングに用いるデザインの作成・普及
- ・ 様々な主体が連携した公共交通機関利用促進の取組

6. 参画者の役割

	短期	中長期
伊勢県民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ 災害時に E V等を活用するための仕組み作りへの協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等の普及促進への協力 ・ デザインの普及促進への協力
伊勢市	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等を観光に活用する取組の検討 ・ 充電施設の整備に関するビジョン作成 ・ 各種事業に係る協議会等の設置支援 ・ E V等利用の拠点となる場の選定、調整 ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ E V等発着（充電）拠点の提供 ・ E V等の購入 ・ 災害協定の締結（企業等の保有 E V等の災害時の活用方法の検討） ・ E V等の災害時活用に関する啓発 ・ 地域での E V等の災害時活用に向けた検討に対する情報提供、全体調整 ・ デザインの募集の周知、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等を観光に活用する取組の事業化支援 ・ E V等の普及促進 ・ 汎用的な災害時 E V等活用マニュアルの作成 ・ デザインの普及
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンタカー事業・シェアリング事業等への参画 ・ E V等利用者に対する特典の提供 ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅館組合全体での事業化展開 ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備
商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種事業に係る協議会の設置 ・ 会員事業者に対する参画の呼びかけ ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備 ・ デザインの募集の周知、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備 ・ デザインの普及
地域事業者（製造業、建設業等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討
地域事業者（商店街等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討 ・ 小売店・飲食店における E V等利用者に対する特典の提供 ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討 ・ 商店街全体での事業化展開 ・ E V等活用マニュアルの作成 ・ E V等の活用に向けた体制の整備
地域事業者（伊勢安土桃山文化村）	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討 ・ 当施設への来訪者等へのデザインの募集の周知 ・ 試乗イベント等の会場提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等車両導入に関する検討 ・ 当施設への来訪者等へのデザインの普及 ・ E V等確保、充電施設整備

レンタカー事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等を利用したレンタカー事業等の運営 ・ レンタカー車両における E V等の導入、充電施設の整備 	
バス事業者		<ul style="list-style-type: none"> ・ バス車両における E V等の導入、充電施設の整備の検討
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ 鉄道駅における E V等利用者への案内誘導 	
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー車両における E V等の導入、充電施設の整備 	
自動車販売店	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等試乗会への協力 ・ 災害協定の締結（保有 E V等の災害時の提供） 	
自動車メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等の提供 ・ シェアリング事業の管理運営に関する技術支援 ・ E V等・充電器に関する情報提供、技術面の支援 	
充電器メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充電器に関する情報提供、技術支援 ・ 充電に係る情報の集約 	
地元大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインの募集の周知、発信 ・ イベント時の本学学生への呼びかけ（参加、ボランティア等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインの普及
観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等を活用した観光情報コンテンツおよびツールの作成 ・ 会員事業者に対する参画の呼びかけ ・ E V等の利用者特典の企画・とりまとめ ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ デザインの募集の周知、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインの普及、デザインを活用した観光の促進
旅行会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等の利用者特典に係るシステム構築・運営 ・ E V等を活用した着地型旅行商品の企画・販売 ・ 充電施設情報等の情報発信 ・ E V等導入事業に係る情報発信 ・ 関係するWGと連携しつつ、デザイン募集の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V等を活用した着地型観光商品の企画・運営（誘客） ・ 各種旅行関連媒体への活用（媒体内容は都度検討）
プロモーション会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザイン選考会の選者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロモーションアドバイス
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊勢市との災害時の協力協定内容をふまえた E V等活用方法の検討への協力 	

7. 短期取組のスケジュールについて

	H25年度		H26年度		H27年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
観光プランの作成・実施	→		→			
超小型モビリティを活用した観光の実現化	→		→			
タクシー車両におけるEV等の導入		→	→			
電気自動車等のカーシェアリング・レンタカー事業の実施			→		→	
電気自動車等を活用している状況を多くの方に見て頂く取組	→				→	
災害時に電気自動車等を共有する仕組みづくり、新規確保の推進	→					
地域における災害時の電気自動車等の活用方法の検討、実際の活用に向けた取組の推進			→			
社用車への電気自動車等の導入		→				
充電施設導入及び運用のためのルール（指針）づくり	→					
駐車場、観光施設、宿泊施設における充電施設の整備		→			→	
汎用的なシンボルマークデザイン、充電設備における誘導用看板のピクトグラムを作成	→					
汎用的なシンボルマークデザイン、充電設備における誘導用看板のピクトグラムの普及		→				
様々な主体が連携した公共交通機関利用促進の取組		→				
あらゆる利用者の充電使用料の支払いを可能とする決済方法の検討	→					
あらゆる利用者の充電使用料の支払いを可能とする決済方法の導入、普及			→			

→ 実施、 → 継続

8. 経緯

- 平成 24 年 3 月 「三重県地球温暖化対策実行計画」策定
- 3 月 26 日 三重県が「地域と共に創る電気自動車等を活用した低炭素社会モデル事業」を県内各市町へ参画の意向の確認と事業内容の提案を公募
- 4 月 9 日 伊勢市が参画意向を三重県に回答
- 5 月 18 日 伊勢市が三重県に事業提案を提出
- 6 月 1 日 三重県が伊勢市をモデル地域に決定
- 8 月 10 日 「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」設立。
第 1 回 協議会開催
次の 5 つのワーキンググループ（WG）で行動計画の策定作業を開始
- ・ EV 等観光プランの作成検討WG（観光WG）
 - ・ 駅周辺商店街によるおもてなしの検討WG（おもてなしWG）
 - ・ 災害時に観光者が安心できる環境づくり検討WG（災害WG）
 - ・ EV 等のモビリティを上手く使える環境づくりWG（充電WG）
 - ・ 観光地伊勢に調和したデザインづくり検討WG（デザインWG）
- 12 月 「伊勢市地球温暖化防止実行計画」策定
- 12 月 7 日 第 2 回 協議会開催
- 平成 25 年 2 月 8 日 第 3 回 協議会開催
- 3 月 19 日 第 4 回 協議会開催
行動計画「おかげさま Action！」策定

資 料

『「おかげさまAction！」作成活動記録』

- ・ ア) E V等観光プランの作成検討WG
- ・ イ) 駅周辺商店街によるおもてなしの検討WG
- ・ ウ) 災害時観光者が安心できる環境づくりWG
- ・ エ) E V等のモビリティを上手く使える環境づくりWG
- ・ オ) 観光地伊勢に調和したデザインづくり検討WG

1 . 各WGの検討内容

各WG（ワーキンググループ）の概要や検討項目は以下に示すとおりです。

ア) E V等観光プランの作成検討WG

自家用車で訪れる方を公共交通機関へシフトし、市内を不便なく、かつ、低炭素で観光できる環境を検討する。

- ・ 公共交通機関と市内で使用するE V等を活用するための観光プランの作成(「伊勢ならではのプランを作成)
- ・ 観光客だけの利用環境を考えるのではなく、市民にとって使い易いE V等の利用環境も検討
- ・ 公共交通機関の利用促進と地域の活性化方策の作成 等

イ) 駅周辺商店街によるおもてなしの検討WG

E V等を活用している姿を多くの方に見せることにより、外宮参道利用者をもてなす方法の検討を行う。

具体的には、E V等を電源として活用している姿を見せる方法について検討する。

ウ) 災害時に観光者が安心できる環境づくり検討WG

E V等を非常用電源として有効に活用する方法や、利用できる仕組みづくりについて検討する。

- ・ 企業が有するE V等を、災害時の非常用電源や、医療機関等で利用する仕組みづくりの検討
- ・ その他、災害時に対応できるE V等の利用方法の検討 等

エ) E V等のモビリティを上手く使える環境づくりWG

日常生活、観光E V等を使用するための充電施設に関するルールを作成する。またE V等を使う方を増やすためのインセンティブについて検討する。

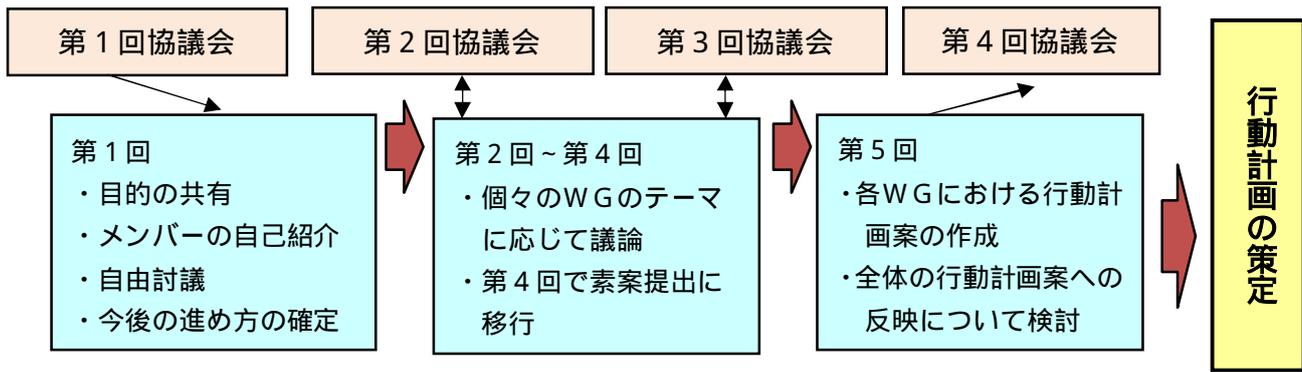
- ・ 充電器設置の位置や、充電器使用の課金方法の検討
- ・ 優先駐車場や、施設における駐車場所（優遇）の検討
- ・ 看板による案内表示や、その設置場所の検討 等

オ) 観光地伊勢に調和したデザインづくり検討WG

観光地伊勢に調和したE V等についての統一的なデザインのあり方について検討する。

- ・ 「分かりやすさ」や「伊勢らしさ」などの観点からのデザインの検討
- ・ 車両・充電設備・看板等での統一的なデザインの活用方法の検討
- ・ デザインの募集方法、周知方法、選出方法、展開方法等の検討 等

2. 協議会及びWGの開催状況



< H24年度の協議会及びWGの検討状況 >

時期	WGの時期と課題					協議会の時期と議題
	ア)観光プラン	イ)おもてなし	リ)安心づくり	イ)上手く使う	オ)デザイン	
8月						第1回協議会(8/10) ・WGの内容等の確定
9月		第1回(9/20) ・目的の共有 ・今後の進め方 ・自由討議	第1回(9/20) ・目的の共有 ・今後の進め方 ・自由討議			
10月	第1回(10/10) ・目的の共有 ・今後の進め方 ・自由討議	第2回(10/22) ・商店街の状況確認 ・取組内容の検討	第2回(10/23) ・地震、津波の被害想定 ・課題の抽出	第1回(10/11) ・目的の共有 ・今後の進め方 ・自由討議	第1回(10/11) ・目的の共有 ・今後の進め方 ・自由討議	
11月	第2回(11/8) ・EV等活用事例の紹介 ・事例展開に関する検討			第2回(11/14) ・各事業者が有する技術紹介 ・充電施設整備に関する検討	第2回(11/20) ・デザインのあり方、活用方法検討	
12月	第3回(12/7) ・伊勢市らしいEV等活用に関する方向性の検討	第3回(11/26) ・おもてなし活動方法の共有 ・取組実現可能性の検討	第3回(11/27) ・各課題の具体的な検討	第3回(12/12) ・充電スポットに関する検討	第3回(12/21) ・デザインの募集、周知、選出、展開方法の検討	第2回(12/7) ・これまでのWG検討結果の共有 ・以降の方針
1月	第4回(1/30) ・EV等導入方針の検討	第4回(1/22) ・実施プランの検討	第4回(1/30) ・各主体に求められる役割の検討		第4回(1/22) ・デザイン募集に関する検討	
2月				第4回(2/8) ・充電設備の設置方針の検討		第3回(2/8) ・これまでのWG検討結果の共有 ・行動計画案
3月	第5回(3/13) ・スケジュールも示した行動計画案の作成	第5回(3/15) ・スケジュールも示した行動計画案の作成	第5回(3/5) ・スケジュールも示した行動計画案の作成	第5回(3/13) ・スケジュールも示した行動計画案の作成	第5回(3/6) ・スケジュールも示した行動計画案の作成	第4回(3/19) ・行動計画策定

3. 各WGの活動記録

ア) EV等観光プランの作成検討WG

(1)WGメンバー

会社名(又は法人名)	
伊勢市(交通政策課、商工労政課)	近畿日本ツーリスト株式会社
学校法人皇學館大学	タイムズ24株式会社
国立大学法人名古屋大学	東海日産自動車株式会社
伊勢商工会議所	株式会社トヨタレンタリース三重
社団法人伊勢市観光協会	豊田通商株式会社
社団法人三重県旅客自動車協会	トヨタ自動車株式会社
公益社団法人三重県バス協会	日産自動車株式会社
伊勢旅館組合	本田技研工業株式会社
株式会社伊勢安土桃山文化村	株式会社JTB中部
近畿日本鉄道株式会社	

(2)活動経緯

	開催日	検討を行った内容	検討の状況
第1回	平成24年 10月10日	・会議の進め方についての検討 ・伊勢市でEV等を活用する目的やアイデアに関する自由討議	注目を集める式年遷宮をPRに活用、中長期的な観光戦略にEV等を活用していくことを確認した。
第2回	平成24年 11月8日	・事業者によるEV等活用事例の紹介 ・伊勢市での事例展開に関する検討	伊勢市の観光特性や宿泊施設の付加価値向上の観点から事業検討が必要との意見が出た。
第3回	平成24年 12月7日	・伊勢市らしいEV等活用に関する方向性の検討	代表者がこれまでのWG検討事項を整理、EV等シーズと利用者ニーズを結びつける事業を検討した。
第4回	平成25年 1月30日	・伊勢市におけるEV等の導入方針の検討	EV等の活用方向性は整理できたものの、短期(3か年程度)に導入することへの課題が噴出した。
第5回	平成25年 3月13日	・検討結果のまとめ ・次年度以降に検討が必要な取組の検討	EV等を活用する伊勢観光スタイルのイメージを描き、皆で共有することを次の課題とした。



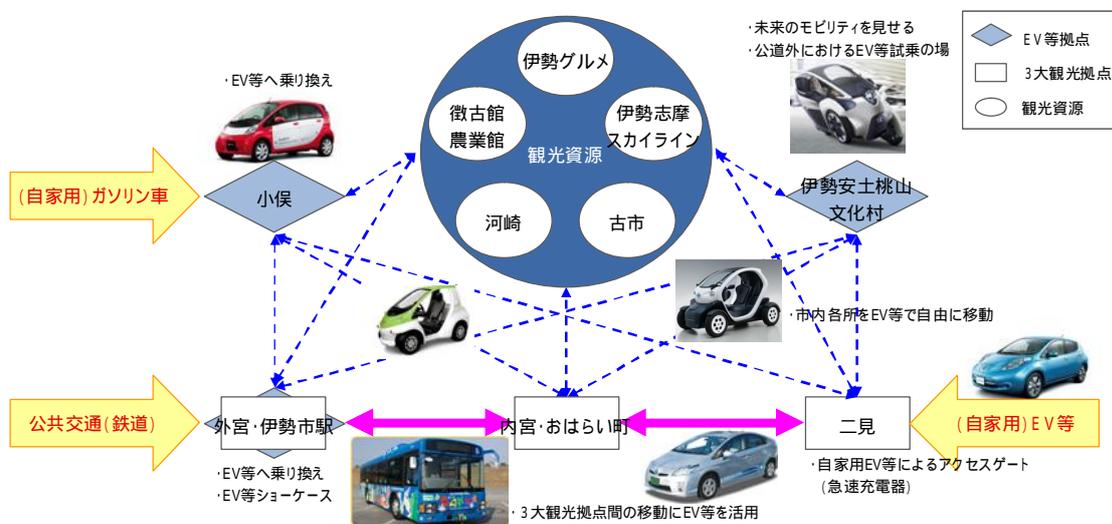
(3)活動結果

伊勢市観光においてEV等を導入する目的は環境と観光の2つに整理しました。環境面では、自家用車で観光に訪れる割合が高く、EV等を2次交通として活用することにより、鉄道利用者の増加を促進し、低炭素化へつなげます。また、観光面では、内宮と外宮両方の参拝と共に神宮以外の観光地への周遊を誘導することや、伊勢で宿泊する価値を創出すること等を目指します。

観光WGによる観光プランでは、6つの基本方針を整理しました。

- 1) 3つのアクセス手段に対応したEV等の利用方を講じる
- 2) 3つの拠点によりEV等を見て、体験する場を作る
- 3) 3大観光拠点間の移動にEV等を活用する
- 4) 市内各所をEV等で周遊できる利用環境を整備する
- 5) EV等を活用し、観光資源に新たな価値を創出する
- 6) 様々な利用形態を可能とするEV等を導入する

観光客のアクセス手段別によると、公共交通は伊勢市駅、自家用ガソリン車は小侯、自家用EV等は二見が伊勢市へのアクセスポイントとなります。伊勢市駅や小侯では、そこでEV等に乗換えを、二見は充電を行える場所とし、そこから3大観光拠点や市内各所の観光資源の周遊につなげます。また、外宮・伊勢市駅、小侯、伊勢安土桃山文化村は、観光客が実際にEV等を見て体験してもらう拠点とします。伊勢市を走行するEV等を増やし、観光客や市民に見せることで、EV等のまちとしての定着を図ります。



拠点におけるEV等の利用イメージ

拠点	EV等の利用方法
外宮・伊勢市駅	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道からEV等への乗り換え拠点(バス、タクシー、レンタカー、カーシェアリング、レンタサイクル等) 車両を展示するとともに、EV等の利用方法の実演を通じて紹介し、広く知ってもらおうショーケース
小侯	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン車からEV等への乗り換え拠点 伊勢市がEV等の普及に積極的であることをシンボリックに見せる場
安土桃山文化村	<ul style="list-style-type: none"> 未来のモビリティを見せる拠点 公道外という特性を生かし、公道走行の未認可EV等を展示・走行させる実験場

短期的な事業として国土交通省「超小型モビリティの導入促進」予算を活用したカーシェアリング事業の実施を決定しました。今後、事業イメージを確立、運営協議会を立ち上げ、様々なEV等で公共交通の利便性の低い観光地を巡ることのできる事業を目指すこととしました。

WGでは、コストやEV等の性能からEV等導入に多くの課題のあることが明らかとなりました。一方、タクシー事業者が1台導入を決定、駐車場事業者がシェアリング事業の実施意向を示す等、少しずつ導入の動きが出ており、成功事例を積み上げながら新たな事業を追加していくこととして検討を終えました。

イ) 駅周辺商店街によるおもてなしの検討WG

(1)WGメンバー

会社名(又は法人名)	
伊勢市(商工労政課)	国立大学法人三重大学
伊勢商工会議所	株式会社JT B中部
外宮参道発展会	日本ユニシス株式会社
学校法人皇學館大学	国立大学法人名古屋大学

(2)活動経緯

	開催日	検討を行った内容	検討の状況
第1回	平成24年 9月20日	・目的・ゴールの共有 ・現地情報および先進事例の共有 ・取組アイデアに関する自由討議 ・今後の進め方の確定	各提案者より、様々な取組アイデアが提案され、大きくは、EV等の乗り物としての活用と電源としての活用の2つの軸で検討した。
第2回	平成24年 10月22日	<現地視察・試乗会> ・外宮参道及び商店街の状況把握等 ・取組内容の検討	現地視察・試乗会では、小型電動カート・電気自動車の試乗や、外宮参道の視察を行い、その後の議論では、視察・試乗会を踏まえた具体的な検討を開始した。
第3回	平成24年 11月26日	・前回WGのふりかえり ・おもてなし活動提案の共有 ・取組内容および取組を実現する上での必須要件・課題の検討	小型電動カートの活用は、安全性や運営面の課題や参道の利用状況から実施困難との結論になり、主に電源活用等による見せる場としての役割に焦点をあてる方向で議論を進めることになった。
第4回	平成25年 1月22日	・宿題の確認 ・実施プランの検討	EV等の電源利用によるおもてなし活動案について、伊勢市駅前、外宮参道内、外宮前の3地点での具体的な活動案を検討した。
第5回	平成25年 3月15日	・検討結果のまとめ ・次年度以降に検討が必要な取組の検討	地域の若者も含め、みんなでおもてなし活動の企画・運営に取り組むことの重要性を確認し、次年度以降の活動案をとりまとめた。



(3)活動結果

協議事項

本WGでは、外宮参道周辺地域において、参道利用者の方々にEV等を活用している状況を多くの方に見ていただくことによりその意義や用途を知っていただく役割を果たす、具体的な活動アイデアや活動枠組みについて、議論を重ねました。

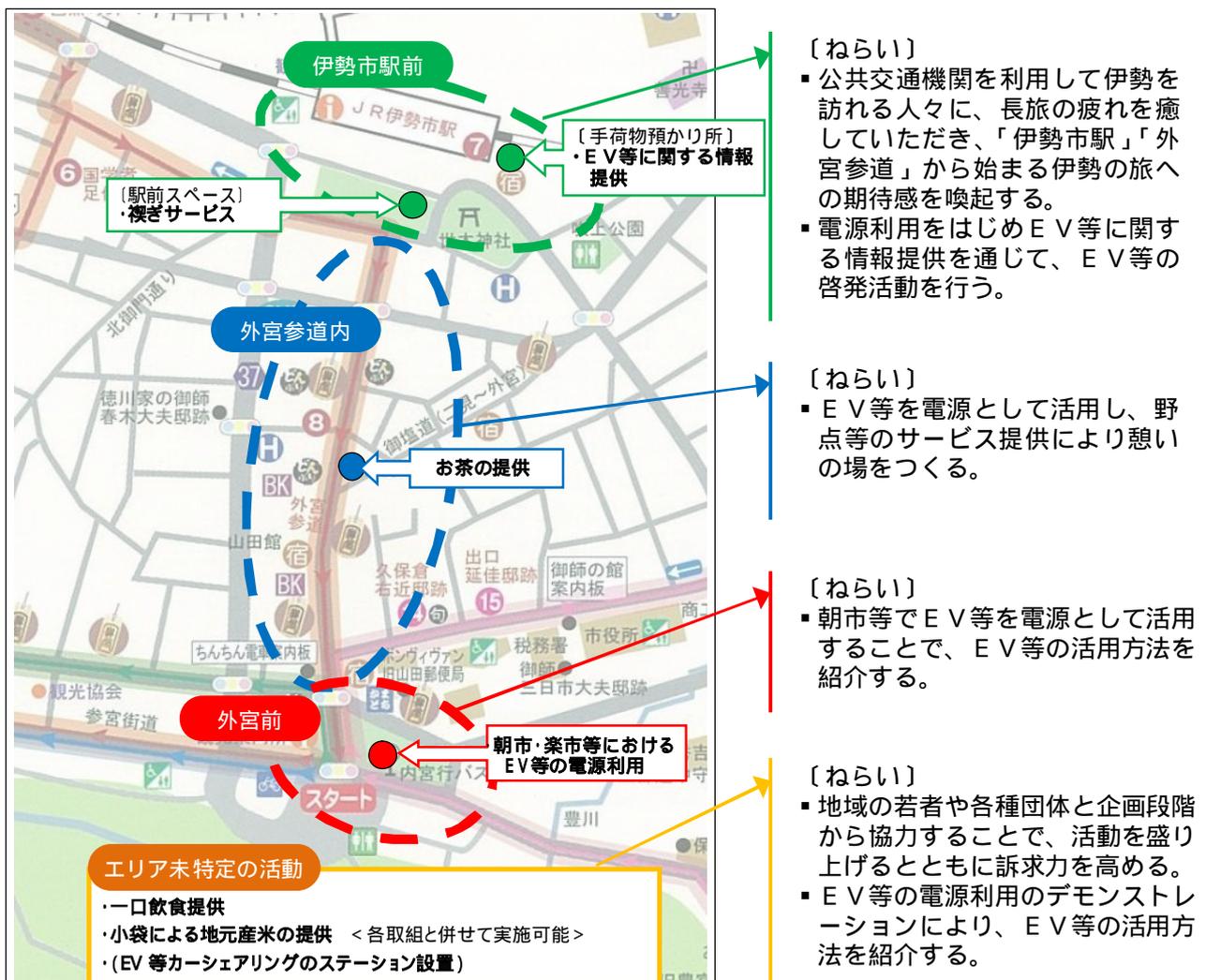
活動方針

本WGでは、以下の点について特に重視しつつ、外宮参道周辺地域におけるおもてなし活動を企画・推進することの重要性が共有されました。

- ・ EV等を活用している姿の紹介とおもてなし活動の両立
- ・ 伊勢市駅前、外宮参道内、外宮前の3地点による活動実施と有機的連携
- ・ EV等に触れる機会の提供
- ・ 地域の若者や各種団体と連携した企画・運営

事業概要

具体的には、伊勢市駅前、外宮参道内、外宮前の3箇所、およびその他いずれかのエリアにおいて実施する活動アイデアが以下のとおり提案され、その推進枠組みを整理しました。



ウ) 災害時観光者が安心できる環境づくりWG

(1)WGメンバー

会社名(又は法人名)	
伊勢市(危機管理課、観光企画課)	社団法人伊勢地区医師会
伊勢県民センター	伊勢二見民宿組合
国立大学法人名古屋大学	近畿日本鉄道株式会社
伊勢おはらい町会議	トヨタ自動車株式会社
伊勢商工会議所	日本電気株式会社

(2)活動経緯

	開催日	検討を行った内容	検討の状況
第1回	平成24年 9月20日	・WGの検討内容・スケジュール・進行方法 ・災害時に発生すると想定される課題 ・災害時を想定したEV等の活用事例	災害時のEV等の活用用途として、「電力供給」「人員輸送・物資運搬」を想定し、これらのニーズが発生しうる場面を検討した。
第2回	平成24年 10月23日	・伊勢市における地震・津波の被害想定 ・災害時に発生しうる課題の洗い出し	伊勢おはらい町における災害対応プロセスに沿って「電力供給」「人員輸送・物資運搬」の課題を洗い出した。また、課題に対応するための技術について各企業が提案を行った。
第3回	平成24年 11月27日	・東日本大震災におけるTDL・松島での対応 ・各課題の具体的な検討	検討対象のプロセスを災害発生から3時間後～数日間に設定。二見地域における災害対応をふまえて課題を整理した後、EV等で対応するものの抽出を行った。
第4回	平成25年 1月30日	・行動計画の策定に向けて ・参画者の役割	EV等で対応する課題について、電力供給では電力量、人員輸送・物資運搬では対象者や距離をふまえ、EV等の必要台数を検討した。
第5回	平成25年 3月5日	・災害WGウの検討結果のまとめ ・必要な取組、参画者の役割、スケジュール ・地域でのEV等の導入に関する情報提供	第4回までの議論で整理されたEV等の活用イメージを確認。それを実現するための必要な取組や参画者の役割、スケジュールを検討した。



(3)活動結果

災害時のEV等の活用場面として「電力供給」「人員輸送・物資運搬」を設定し、異なる観光特性を持つ伊勢おはらい町・二見町を対象地域として、地震発生から3時間後～数日間における、EV等の活用イメージを検討しました。

電力供給については、「情報収集・発信」「小規模の飲食対策」「救護活動に必要な電力供給」「給水ポンプへの電力供給」、人員輸送・物資運搬については、既存の車両が利用できない場合の「避難者の病院への搬送」等をニーズとして整理しました。災害時に置いて、各地域に1～3台程度のEV等を設置すれば、これらのニーズに対応できることが解りました。

【活用イメージその1】情報収集・発信に必要な電力供給

避難者の携帯電話
防災スタッフの無線機
情報収集・発信用のパソコン
プロジェクター
モバイルルーター

必要な電気機器	1台あたりの電力	機器の数
無線機(4時間充電)	20w	8機
パソコン	100w	1台
プロジェクター	300w	1台
モバイルルーター(4時間充電)	5w	1台
携帯電話(1.5時間充電)	5w	複数台

PHV : AC100V / 1500w

【活用イメージその2】小規模の飲食対策

電気ポット
赤ちゃん用ミルク
お茶
軽食

必要な電気機器	1台あたりの電力	機器の数
電気ポット	100～700w	複数台

PHV : AC100V / 1500w

【活用イメージその3】救護活動に必要な電力供給

AED(自動体外式除細動器)
投光器

必要な電気機器	1台あたりの電力	機器の数
投光器	150w	複数台
AED(4時間充電)	50w	1台

PHV : AC100V / 1500w

【活用イメージその4】給水ポンプへの電力供給

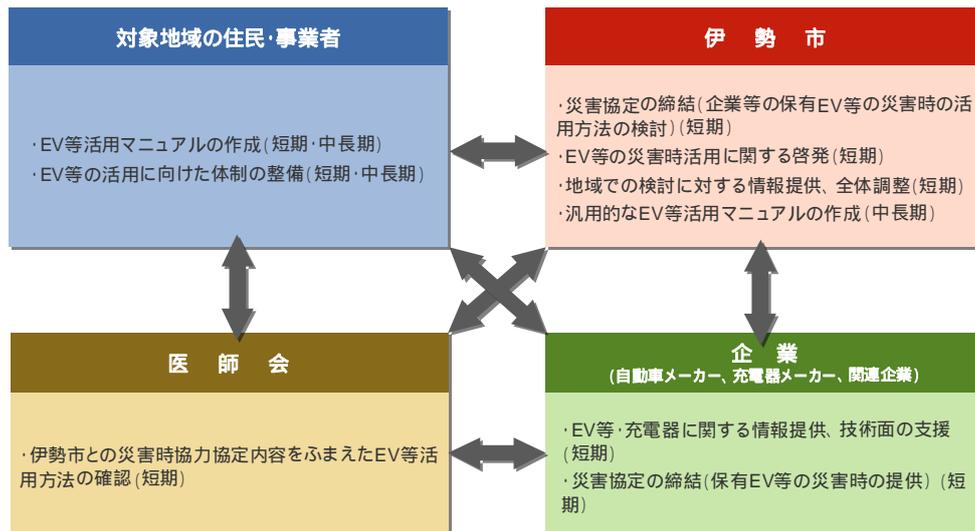
必要な電気機器	1リットル給水に必要な電力	必要な水の量
給水ポンプ	平均1kWh	1日1人あたり20リットル

地震発生から10日までに避難者への目標給水量

EV : AC100V / 1500w
パソコンが必要

上水道管 受水槽 給水ポンプ

災害時にEV等を活用するために必要な取組を検討した結果、短期的には、災害協定の締結を含む既存のEV等を災害時に共有する仕組みづくり、地域におけるマニュアル作成・訓練の実施・備品の確保・EV等の導入可能性の検討が必要と解りました。また、中長期的には、先行してEV等を導入した地域での検証結果をふまえ、全市的に展開していくことが必要であると考えました。これらの取組を推進するために必要な各参加者の役割を、下記のとおり整理しました。



エ) E V等のモビリティを上手く使える環境づくりWG

(1)WGメンバー

会社名(又は法人名)	
伊勢市(環境課)	東海日産自動車株式会社
国立大学法人三重大学	株式会社トヨタレンタリース三重
伊勢商工会議所	日東工業株式会社
社団法人伊勢市観光協会	日本ユニシス株式会社
二見町旅館組合	日本電気株式会社三重支店
イオンリテール株式会社イオン伊勢店	日産自動車株式会社
近畿日本鉄道株式会社	三菱自動車工業株式会社
タイムズ24株式会社	株式会社JTB中部

(2)活動経緯

	開催日	検討を行った内容	検討の状況
第1回	平成24年 10月11日	・会議の進め方についての検討 ・E V等のモビリティを上手く使える環境づくりに関する自由討議	E V等の利用者を予め想定した上で利用環境づくりについて検討することを確認した。
第2回	平成24年 11月14日	・各事業者が有する技術の紹介 ・伊勢市における充電設備整備に対する事業者提案	伊勢市に活用可能な技術情報を得て地元として何を行いたいのか、地元メンバーで議論することが必要との意見が出た。
第3回	平成24年 12月12日	・充電施設整備に対する考え方の検討 ・充電スポットの候補地の検討	地元メンバーのみで開催。伊勢市におけるE V等の利用動向を想定、充電ニーズを仮定して、充電設備の種類、設置場所等を検討した。
第4回	平成25年 2月8日	・E V等の充電設備の設置方針の検討	経済産業省補正予算を活用して効果的に充電設備を整備することを確認し、設置の考え方を再検討した。
第5回	平成25年 3月13日	・検討結果のまとめ ・次年度以降に検討が必要な取組の検討	全てのE V等利用者が充電できるような課金システムについて、最優先で勉強・検討して行くことが必要であることを確認した。



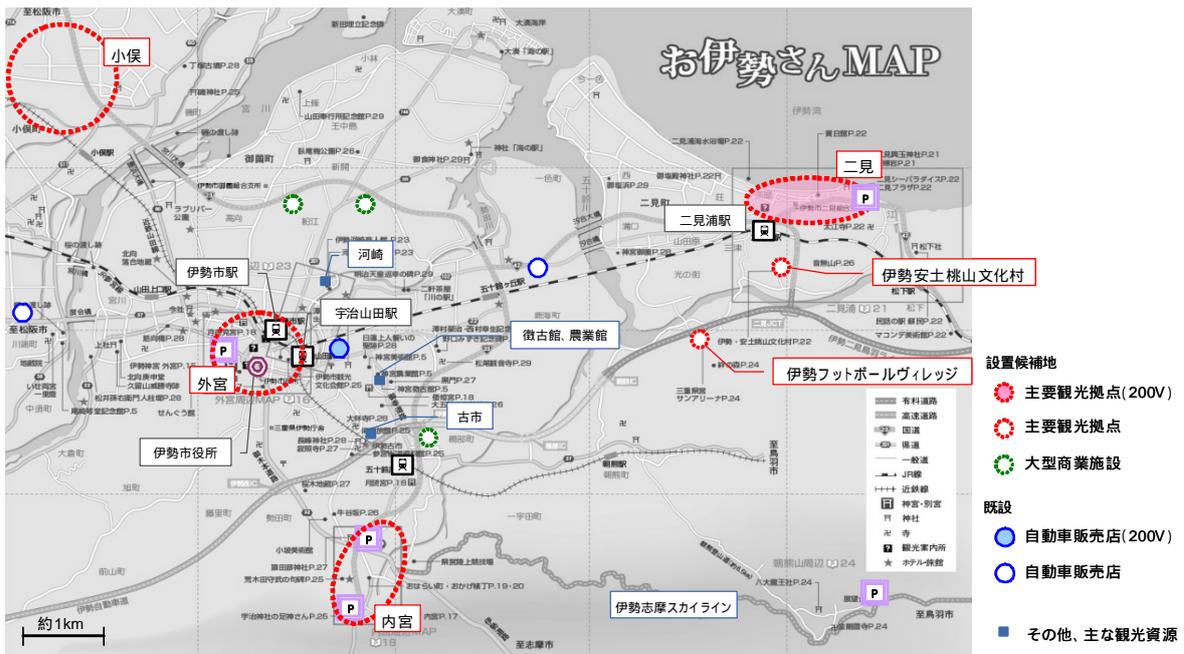
(3)活動結果

充電施設の整備について、観光客を想定した「E V等を伊勢市で借りる」「E V等で伊勢市を訪れる」、市民を想定した「伊勢市でE V等を保有する」、交通事業者を想定した「E V等による交通サービスを行う」という4つの利用者分類を行い、それぞれの充電ニーズを想定した。市域や観光資源間の距離が近い伊勢市内のみでE V等を利用することを前提とすれば、充電ニーズはそれ程大きくならないと考え、観光客や市民の電欠の不安解消を充電施設の整備の目的としました。具体的な充電設備の整備の基本方針について、市民や市内事業者は基礎充電(自宅・事業所で充電)し、E V等の普及状況を鑑みながら観光客の急速充電に対応すれば良いとの考えから、急速充電器の設置は新たに1,2か所として、普通充電器の設置を基本としました。

急速充電器については、広域道路アクセスの利便性が高く、観光を誘導するために、二見地域を選定しました。観光客は二見で充電を行っている間に、夫婦岩等の周辺観光スポットを観光し、その後、外宮や内宮を周遊してもらうことをねらいとしています。

また、経済産業省「次世代自動車充電インフラ整備促進事業(平成24年度補正予算)」を活用し、スピード感を持って効果的に整備するため、充電施設の設置が必要と思われる場所を幅広く抽出しました。そのため、普通充電器の設置候補地については、伊勢市の3大観光拠点である外宮、内宮、二見の他、観光WGで検討している小俣や伊勢安土桃山文化村、大規模集客施設である伊勢フットボールヴィレッジ等を選定することと、事業者が公共性のある場所へ設置を行うために事業者の意向を確認することとしました。

なお、課金については、将来的な動向を踏まえ、原則的に徴収する方向で検討して行くこととしました。



経済産業省の補助金を活用して充電施設を整備するために、具体的な設置場所確保と課金システムの構築が次年度の喫緊の課題となります。設置場所について、E V等の利用者へのインセンティブ提供や多くの観光客にE V等を見せるためには観光施設近くが望ましいですが、神宮参拝による激しい渋滞に巻き込まれないことも重要との意見があります。また、課金方法について、全てのE V等利用者が決済できることを前提とする必要があります。

オ) 観光地伊勢に調和したデザインづくり検討WG

(1)WGメンバー

会社名(又は法人名)
伊勢市(観光企画課、都市計画課)
学校法人皇學館大学
伊勢商工会議所
社団法人伊勢市観光協会
株式会社伊勢安土桃山文化村
株式会社JTB中部

(2)活動経緯

	開催日	検討を行った内容	検討の状況
第1回	平成24年 10月11日	・会議の進め方についての検討 ・伊勢らしいデザインについての自由討議	伊勢全体の理念がないと、伊勢らしいデザインも議論できないとの意見が出た。
第2回	平成24年 11月20日	・海外主要都市の事例、デザインの定義についての報告 ・伊勢市の理念について意見交換 ・デザインのコンセプトについて意見交換 ・デザインの対象範囲について意見交換	伊勢全体の理念の確認の後、デザインのコンセプトを各メンバーで持ち寄り議論。デザインの対象範囲について今後検討することにした。
第3回	平成24年 12月21日	・EVデザイン公募にあたっての前提条件について意見交換 ・デザインコンペの周知、選定、展開などの実施主体、スケジュール等の検討	デザイナーに伝えるべき伊勢らしいデザインを検討し、その後デザインコンペの実施主体やスケジュール等を議論。
第4回	平成25年 1月22日	・デザインWG実施プラン案、公募要領案についての検討 (特にデザインを募集する対象について検討)	デザインを募集する対象を、汎用的なシンボルマークとピクトグラムにすることを決定した。
第5回	平成25年 3月6日	・デザインWG実施プラン案、公募要領案についての検討 (特に、デザインの公募要領、募集方法について検討)	汎用的なシンボルマークとピクトグラムを、国内外へ公募することに決定した。

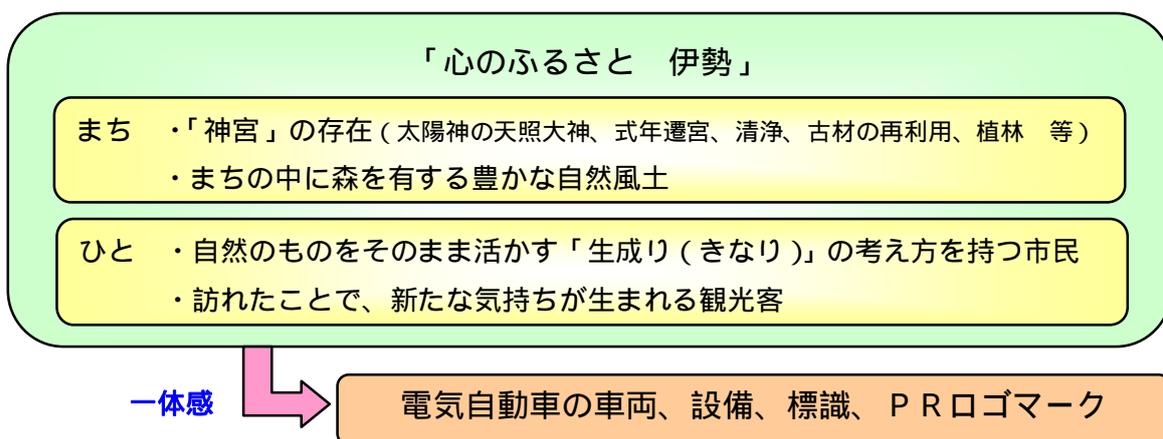


(3)活動結果

協議会の活動について解りやすく使い易い、汎用的なシンボルマークと、様々な国や地域の方が訪れる伊勢市で充電設備の位置を解りやすく示すための誘導用看板（ピクトグラム）について、国内外へ公募し、伊勢市からEV等の取組を情報発信することに決めました。

公募にて多くのデザイナーにイメージを伝えるための、**低炭素社会を目指す伊勢市の理念やコンセプト**を含めた『伊勢らしさ』を考えました。

- ・伊勢市には清浄なる神宮があり、伊勢独特の歴史・文化、自然風土を有するなど、国内でも有数の環境の聖地であると多くの人から思われています。神宮は、20年ごとの式年遷宮で「常若」を保つと共に、古材の再利用と御用材の確保のために植林を行うなどの持続的な取組が千数百年も行なわれています。また、天照大神は太陽神であることから、『太陽光から電気を得て電気自動車が走る』というイメージが馴染むと考えられます。
- ・伊勢市は杜の中にまちがあり、自然と共に豊かに生きる暮らし方が息づいています。また、「生成り（きなり）」という考え方が根づき、自然のものを活かす取組が行われています。また、当たり前身近なことをコツコツと実施している伊勢の生活にみられる「堅実」「品性」「正直」などは日本人の心であり、地球を思う心へもつながっていると考えられます。
- ・伊勢は、自分を見つめなおすところであると共に、伊勢の人によるおもてなしにより、豊かさを感じられるところでもあることから、訪れた者にとって、「新たな気持ちが生まれる場所」となっています。
- ・伊勢市に住む多くの方は、伊勢は「古くて新しい」まちであり、「おかげさま」「もったいない」という人の心を持った「心のふるさと」と考えられています。



デザイン公募をするための、公募要領（案）を作成しました。

＜公募要領（案）項目＞	
趣旨	デザインに反映していただきたい思い
デザインの活用方法	事業スケジュール
審査について（審査基準、審査委員）	応募方法等

本WGにおいて、本計画のタイトルになった「おかげさまAction！」や、「心のふるさと 伊勢 - 歩くまち・クリーン自動車のまちを目指して - 」というタグラインが生まれました。